

福島県のごミムシ類 2 種について

笠原 須磨生

Sumao KASAHARA: On Two Carabid Beetles from Fukushima Prefecture, Northeast Japan

クロズアカチビゴモクムシ *Acupalpus (Setacupalpus) hilaris* Tschitschérine 1♀, 福島県東白川郡塙町 真名畑林道, 27-V-1988, 筆者採集.

路傍の水溜りの縁で、草の根ぎわから出てきたものを採集した。本種の基産地は東シベリアで、日本では、北海道と宮城県から初めて報告され (HABU, 1981), ほかに栃木県塩原の記録 (笠原, 1981) があるにすぎない。原色日本甲虫図鑑, 2 (p. 149, pl. 27) に図示解説されているように、色彩の顕著な種であるが、分布が局地的で個体数が少なく、体が小さいこともあって、発見の機会がまれなのかもしれない。関東平野周辺が分布の南限となる寒地性のごミムシのひとつであろう。

アリスアトキリゴミムシ *Lachnoderma asperum* BATES

1♂, 4♀♀, 福島県双葉郡広野町 浅見川溪谷, 13-VIII-1988, 筆者・江橋芳英採集.

旅館の屋上に設置したライトトラップに飛来した。当夜は、ほかにも数頭が得られている。暖地性のよく知られた種であるが、いわゆる珍種に属し、一度に多数を見ることはほとんどない。和名のアリスは「蟻巣」の意で、好蟻性を想わせるが、生態については不明な点が多く、土中に潜入して成虫越冬をすること、春夏の候は石下に見られること、本例のように灯火に誘引されること、などが知られているくらいである。蟻の巣に侵入して幼虫や蛹を食う (戸澤, 1943) という嗜好習性については、いまだに確証がなく、疑問視されている (HABU, 1967)。

ちなみに、本種の基産地は、神奈川県箱根の宮ノ下で、記載にもちいられた標本は、BATES (1883) の記述によると “One example under a stone; another, partly eaten, in an ant’s nest; May 3rd, 1880.” というのである。1880 年、初夏の箱根を訪ねた LEWIS が採集したのは、石下の 1 頭のほか、蟻の巣のなかに見いだされた一部を食われたもの (おそらく死骸) であった。どうやら蟻を食うどころか、食われた死骸の出所が和名の由来、と解釈したほうがよさそうである。

末尾ながら戸澤論文のご教示を頂いた、名古屋女子大学の佐藤正孝教授、ならびに東京農業大学の渡辺泰明助教授に厚くお礼申しあげる。

参 考 文 献

- BATES, H. W., 1883. Supplement to the geodephagous Coleoptera of Japan, chiefly from the collection of Mr. George LEWIS, made during his second visit, from February, 1880, to September, 1881. *Trans. ent. Soc. London*, 1883: 205-290, pl. 13.
- HABU, A., 1967. Carabidae Truncatipennes group (Insecta: Coleoptera). In: *Fauna Japonica*. xiv+338 pp., 27 pls. Biogeogr. Soc. Japan, Tokyo.
- 1981. *Acupalpus (Setacupalpus) hilaris* Tschitschérine found in Japan (Coleoptera, Carabidae). *Ent. Rev. Japan*, 35: 41-44.
- 笠原須磨生, 1981. クロズアカチビゴモクムシ栃木県の記録. 甲虫ニュース, (54): 7.
- 1985. ゴモクムシ亜科. 上野俊一, 黒澤良彦. 佐藤正孝(編著), 原色日本甲虫図鑑, 2: 140-151. 保育社, 大阪.
- 戸澤信義, 1943. 蟻を食ふ昆蟲. 寶塚昆蟲館報, (35): 1-7.